



はらだ きさこ
■ 原田 規梭子

東洋学園大学学長。1967年明治大学文学部卒業。1969年明治大学大学院文学研究科修士課程修了。専攻は英米の演劇。東洋女子短期大学学長、東洋学園大学副学長を経て現職。日本英文学会、現代演劇研究会所属。主著として『キャリル・チャーチル＝フェミニズムを超えて』、『現代英米の劇家たち』、『サラ・ダニエルズ＝フェミニズムに向きあって』、『いじめなんかじゃくたばるもんか』（共著）。

たかくら ひろき
■ 高倉 弘喜

国立情報学研究所教授。平成2年九州大学工学部卒業、平成4年九州大学大学院工学研究科修士課程修了、平成7年京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了。専攻はサイバーセキュリティ。京都大学研究員、イリノイ州立大学客員研究員、奈良先端科学技術大学院大学助手、京都大学講師、助教授、名古屋大学教授を経て、平成27年国立情報学研究所教授。平成28年同所サイバーセキュリティ研究開発センター長。主著として、長谷川皓一、山口由紀子、嶋田創、高倉弘喜、『標的型攻撃に対するインシデント対応支援システム』、情報処理学会論文誌、Vol.57, No.3, pp.836-848, 2016年3月。Yang ZHONG, Hiroshi ASAKURA, Hiroki TAKAKURA, Yoshihito OSHIMA, “Detecting Malicious Inputs of Web Application Parameters using Character Class Sequences,” The 39th Annual International Computers, Software and Applications Conference (COMPSAC2015), pp.525-532, doi 10.1109/COMPSAC.2015.73, July 2015.

みつなが たくほう
■ 満永 拓邦

博士（情報学）、東京大学情報学環セキュア情報化社会研究寄付講座特任准教授、JPCERT コーディネーションセンター早期警戒グループ技術アドバイザー。京都大学情報学研究科修了後、ベンチャー企業にてセキュリティ事故対応や研究開発に携わる。その後、JPCERT/CC早期警戒グループに着任し、標的型攻撃などのサイバー攻撃に関する分析業務に従事。2015年から現職にて、IoT、機械学習、Fintechなどの新たな分野のセキュリティについて研究を行う。共編著書に『サイバー攻撃からビジネスを守る』、『CSIRT』（ともにNTT出版）など。

こまつがわ ひろし
■ 小松川 浩

1967年生まれ。千歳科学技術大学教授。慶應義塾大学理工学部助手、千歳科学技術大学講師、助教授を経て現職。1995年慶應義塾大学理工学研究科物理学専攻博士（理学）。教育システム情報学会理事。情報科教育学会理事。日本リメディアル教育学会理事。主要著作：『大学におけるeラーニング活用実践集』（共著 ナカニシヤ出版2016年）。『学士力を支える学習支援の方法論』（共著 ナカニシヤ出版2012年）。

のざわ たけし
■ 野澤 健

立命館大学経済学部英語科目担当教授、言語教育センター所属。専門は、第2言語の音声知覚と生成。1986年神戸市外国語大学大学院修了。明石工業高等専門学校講師、助教授、関西国際大学助教授を経て、2004年より現職。主著『ことばの心理と学習』（金星堂）（共著）、『ジーニアス大英和辞典』（発音校閲）。

なかみち まさき
■ 仲道 雅輝

愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室長兼教育企画室講師。1995年日本福祉大学社会福祉学部卒業。2009年熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻博士前期課程修了（教授システム学）。専攻は教育設計、教授システム学。授業改善・授業コンサルティング、学生能力開発、FD・SDの支援等に取り組む。高等教育におけるインストラクショナル・デザインを活用した教育改革に関する研究を中心に、近年、学習経験の質の向上を目指した実践研究に取り組んでいる。主著として『教育評価との付き合い方—これからの教師のために』（共著）、『大学におけるeラーニング活用実践集—大学における学習支援への挑戦2』（共著）。

* 本欄はお書きいただいた資料からできるだけ統一し、掲載しました。